

特集 各業種から見る、地域経済への期待

商工会議所において、業界特有の経営課題等についての調査・研究、また政策提言や要望・会議所活動に反映させるための活動を行うなど、重要な組織の1つである「部会」。当所では7つの業種別部会が存在します。2020年から始まったコロナ禍の中、各業界ではどのような展開を図ったのか、また今年の展望についてどのように捉えているのか。各部長のほか、女性会・青年部会長を加え、それぞれの視点による現状と今後、また、新年スタートの抱負についてお聞きします。



卸売・小売部会長
岡村 弥
(株)モリレイ
代表取締役社長

■2024年 今の思い&抱負
2024年は、本格的なポストコロナのフェーズに入りますが、世界情勢は、各地で戦争・紛争が勃発、かつ長期化しており、グローバルの時代から分断の時代に軸が移りつつある事を大変憂慮しております。また、地球温暖化による異常気象や自然災害も頻発しており、これまで経験した事のなかった変化が次々と起こっております。
このいわゆる「VUCA」時代の中で、正しい考え方、正しい意思決定をしていく事が極めて重要であると感じております。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って
業界、部会の現状は？
卸・小売に関しては、取り扱い商品やサービスの種類によって、コロナ禍の影響度合いはさまざまであったと認識しています。現状は、永く続いたデフレ経済から一気にインフレ経済へとシフトチェンジしている状況の中で、適切な価格改定を実施し、社員の賃金や処遇の向上につなげられるかが、喫緊の課題になってきているのではと感じております。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について
世界と日本の財やサービスの価格差を勘案しますと、昨年からインフレ傾向は今しばらく続くと考えております。良質な商品・サービスを適正な価格で提供する事によって、物価上昇に見合う賃金の上昇が確保される流れを推進し、「コストカット経済」から「バリューアップ経済」への変化に向かっていく事を期待しております。



観光・料飲・サービス部会長
太田代洋一郎
岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合盛岡支部 支部長

■2024年 今の思い&抱負
コロナ禍の4年間は没コミュニケーションの4年間でした。やはりコミュニケーションは対面でのびびりを感じて話すが大切であると痛感しました。コロナ禍も終息に向かって今、努めて対面でのコミュニケーションを大事にし、皆様と共に諸処の問題解決にあたりたいと思います。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って
業界、部会の現状は？
2020年ステイホームの年、観光・料飲業界はただひたすら耐え忍ぶ年でした。2022年やつとワクチンが安定的に供給され、2023年コロナの5類移行により日常に戻り始めました。
しかし、コロナ禍のダメージは大きく、ゼロゼロ融資の返済がはじまった今、これからの経営に不安を抱えている経営者も多いのではと思います。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について
2023年初頭NYタイムズの記事は明るい話題でした。4月においては2019年を大きく超えるインバウンド客があり、また、5類移行は交流人口の拡大に一定の効果があったと感じます。
しかし、ウクライナ侵攻に端を発するエネルギー価格の高騰などと共に経済の構造的変化もあり、臨機応変な対処が必要であると感じます。



情報・サービス部会長
藤原 哲
(株)岩手日報社
常務取締役労務・総合メディア・関連会社担当兼
執行役員総務局長

■2024年 今の思い&抱負
コロナ禍での停滞が収まって以降も、企業や社会を取り巻く状況は目まぐるしく変化しています。国際情勢や為替の変動による資材価格高騰、日々進化するテクノロジー、さらには、新たな規制や緩和企業は状況に対応しつつ生き残るだけでなく、社員の生活を守り、地域へ成果を還元していかなければなりません。岩手の企業としての存在価値を保ちつつ、前進していきたいと思っています。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って
業界、部会の現状は？
当部会の業種は情報産業、サービス業が中心ですが、医業関連も含まれるなど、コロナ禍の影響は、他部会よりも大きい面がありました。こうした状況の検証は今後の課題とされます。また、情報分野において、人工知能を活用した技術革新などによる変化が著しいため、当部会としてもIT化の推進（キャッシュレスやDX等）を念頭にセミナー等を開催し、部会員事業所の競争力や社会変化への対応力などの強化を図っていききたいと考えます。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について
景気が緩やかに回復する中で、コロナ禍からの経済活動正常化の動きもそろそろ一服となる一方、物価が予想以上に上昇し個人消費の意欲をそいでしまっているのではないかと不安があります。期待としては、DXが進捗し景気動向等に左右されない岩手での暮らし、仕事のすばらしさを国内外に知ってほしいと思います。地元マスコミとして、県民の皆様が、岩手を知り、誇りを持てるような話題、情報を伝えていきたいと考えています。



工業部会長
兼平 賀章
盛岡中央工業団地協
代表理事

■2024年 今の思い&抱負
ロシアによるウクライナ進行、イスラエル軍が侵攻を続けるパレスチナのガザ地区攻撃により世界的に政情不安、円安による食料品・原材料の高騰、さらに動燃費の高騰に加えて人手不足と賃金のベースアップと製造業を取巻く状況は、厳しさを増します。変化する状況を受入、次への活路を見出せなければ生き残れない時代に突入しております。
付加価値を高め、高収益を上げ従業員に還元できるように業界全体で取組んでいきたい。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って
業界、部会の現状は？
コロナ禍の3年間で生活様式・消費行動により企業間で格差がついております。少子高齢化による生産人口の激減とコロナ感染症が5類移行により経済活動が戻り始めております。
また、インバウンドの影響もあり、更に人手不足が深刻な状況にあります。
そして、運転手の2024年問題への対応と社会構造の変化への対応を早期に解決しなければなりません。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について
岩手県南から宮城県北への自動車産業、半導体産業の集積による誘致企業の増加に加え少子化による若い労働力の確保がより厳しい時代へと突入してまいりました。
省力化、省人化を加速させるための補助金の活用を期待したいです。



建設部会長
海野 尚
菱和建设(株)
代表取締役社長

■2024年 今の思い&抱負
現在建設業界は、工事案件の減少や資材の高騰など、とりまく環境がまだまだ不安定で引き続き厳しい状況が続いております。そして、いまや国策となった賃上げ対応も避けて通れないところでもあります。また、時間外労働の上限規制が今年には現実のものとなります。それらに対して、生産性向上の取り組みのほか、適正な工期設定、積算、設計変更など、発注者に対して積極的に意見や要望を出し、受発注者双方が納得したなかで成果が得られるような状況を構築していかなければなりません。上から目線の判断をしないでほしい。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って
業界、部会の現状は？
コロナ禍を振り返ると、色んなものがリモートに置き換わり、無駄を省く傾向になり、書類の簡素化など好ましい変化も起きました。これを教訓として現在はコロナウイルスも5類となり日常生活も普通に戻りつつありますが、逆にインフルエンザが猛威を振るい始めています。部会活動もリモート、対面で変化する状況に適切に対応し、元に戻ることないよう活発な活動に繋げていきたいと思っています。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について
昨年から状況を見てみると、発注量が激減しているように思われます。東日本大震災前の状態には戻っているのではと、皆不安を感じているところがあります。地域の安全安心を守り維持できる地元業者が引き続き存在できるように、予算確保と安定した工事を期待して各方面に要望を展開していきます。



金融理財部会長

浅沼 晃

盛岡信用金庫
理事長

■2024年 今の思い&抱負

昨年から経済活動が活発になってきましたが、同時にコロナ資金の返済も本格化しており、中小企業の伴走資金への借り換えや条件変更の申込みが増加しています。資金繰りは依然として厳しい状況が続いていると言わざるを得ませんが、「人は逆境で磨かれる」とも言います。窮境を希望に変えるためにも、お客様と対話を重ね、共に考えていく姿勢を今後も貫いてまいります。経営者みなさん、一人で悩まず、まずは相談しましょう。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って 業界、部会の現状は？

近年の金融理財部会は、コロナ禍において目立った活動を行うことができず、歯痒い思いを抱いておりましたが、昨年12月、日本銀行仙台支店長を講師にお迎えし、「最近の金融経済情勢について」と題して、4年振りにセミナーを開催することが出来ました。これからも会員みなさまのお役に立つ情報が提供できるよう努めてまいります。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について

世界各国の金融政策の違いによる金利差で為替相場が大きく円安に振れています。さらに物価高騰や人手不足も相俟って、県内の中小企業の経営は厳しい状況が続くことが予想され、経営者みなさんも不安を抱えていると思います。しかし、時代は前にしか進みません。私たちも未来に向かって進まなければなりませんので、お互いが良き相談相手となり、共にこの状況を乗り切っていくことを期待しています。



交通運輸部会長

三田 林太郎

三田農林(株)
取締役社長

■2024年 今の思い&抱負

幼い頃から一緒にやってきた仲間たちが、気づけば地域社会の中で重要なポストに就いているというのは、想像しなかった状況です。言いにくいことも議論し合い、若い人たちからがんばっていると思われるよう、やっていきたいです。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って 業界、部会の現状は？

3年待つて森林所有者のところまでやっと丸太価格の上昇の波が来た、というところですがコロナ前の水準に逆戻りです。弊社では毎年少しずつ市内中心部で、古民家やアパートやマンションの区画をフルリノベーションしておりますが、住居においては不動産屋さんや一般の方々からリノベーション物件の個性的な魅力がまだ伝わらず、築年数で評価されてしまいます。余裕のある人が新しいマンションに移り、積立金が底をつき、現住のストックに大改修をする人はほとんどなく、空き地が出るとすぐマンション、と言う盛岡市のまぢづくり状況に危機感と独自の住宅政策の必要性を感じます。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について

盛岡が観光で注目されても、公共交通の貧弱さが浮き彫りになってきました。赤字ローカル線をバス転換という「常識的な」手段も、いずれはそれも細って消えるだけという雰囲気が見えてきました。東京23区中心部を通るバスさえ減便が決まる現在、「移動」に関する根本的な議論、斬新なアイデアの導入は楽しみです。



盛岡商工会議所
女性会 会長

佐々木 祐子

東京土地販売(株)
代表取締役社長

■2024年 今の思い&抱負

これまで以上に多くの出会いや実りのある1年にしたと思います。昨年は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、多くのイベントが通常開催に戻ったほか、NYタイムズで「2023年に行くべき52か所」の2番目に記載されるなど、前向きな話題が多かったように思います。2024年はその勢いを好機とし、社業の発展ならびに当女性会の飛躍を実現する年にならばと思います。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って 業界、部会の現状は？

2020年以降のコロナ禍は私たち女性会にとっても対面活動の制限や事業規模の縮小など、多くの影響を与えました。従来の運営方法から大きな変更を強いられる場面もありましたが、同時に新たな学びが得られ、危機を乗り越えるための柔軟性と革新性を育む機会にも繋がりました。その経験を活かし、今後50周年の節目を迎える当女性会の更なる活性化を実現したいと考えております。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について

今年の県内経済には、ポストコロナ時代の機会を捉えた進化を期待したいです。特に、人手不足やエネルギー問題、産業のデジタル化が加速している今、私たちもその変化に積極的に関与し理解を深めることが求められます。変化を機会と捉え、持続可能な地域経済の発展に貢献していきたいと考えます。また、地域固有の文化や観光資源を生かした産業の振興も重要です。これらの魅力を国内外に発信することで、県内経済の成長に繋がれることを期待しています。



盛岡商工会議所
青年部 会長

藤原 英里

司法書士法人
藤原合同事務所

■2024年 今の思い&抱負

青年部は20周年を迎え新たな一歩を踏み出した昨年度を踏まえ、今年度は、さらに進化させ、真価を高めていくべく、新たなチャレンジ(新化)やさらなる探究(深化)を通じて、しなやかに変化し成長する組織を目指して活動して参りました。

新年を迎え、次年度へ繋げるべく、さらなる『SHINKA』に向けて歩を進めて参ります。

■2020年から始まったコロナ禍を振り返って 業界、部会の現状は？

昨年度まではコロナ禍で思うように活動ができなかったことも多くありましたが、その中でも知恵を絞り、「もりおか歩(ホ)つと散歩」や「高校生サミット」など、新たな事業を創出し、地域との絆を深めて参りました。そのタイミングでのNYタイムズ紙で「2023年に行くべき52か所」に選ばれたことで、盛岡さんさ踊りや盛岡花火の祭典などのこれまでの継続事業にも弾みがつき、青年部としても微力ながら地域の活性化に寄与することができたのではないかと感じております。

■2024年の国内および県内経済の見通し、期待について

NYタイムズによって、盛岡の人々自身が盛岡の魅力やポテンシャルに気づかされた2023年でありましたが、2024年には新たな地が選定され「NYタイムズに選ばれた」ことの影響力は低下します。しかし、NYタイムズの冠がなくても、盛岡に住み暮らす私たち自身が、盛岡のさらなる可能性を信じて行動していく年として、地域経済の発展に向けて大きく飛躍していくことを期待しています。

